

2 前計画「豊橋市生涯スポーツ推進計画」の総括

(1) 総括

前計画では、基本目標である「健康的で活力あるスポーツのまち」の実現のため、4つの基本方針のもと、穂の国・豊橋ハーフマラソンをはじめとしたマラソンイベント等の充実により、多くの市民がスポーツ活動へ参加できる機会をつくったほか、陸上競技場のスタンド改修や豊橋総合スポーツ公園に新たにサッカー場を整備するなどの環境の充実を図ったことにより、スポーツを通じた市民の健康づくりに寄与することができました。

また、本市が三遠ネオフェニックスのホームタウンになりさまざまな連携を図ってきたことに加え、東京2020オリンピック・パラリンピックを契機にプロスポーツ選手や豊橋ゆかりのアスリートに触れ合う機会をつくることにより、スポーツによる市民の誇りや愛着心の醸成を図ることができました。

本計画においても、引き続き市民のスポーツに触れ合う機会の創出に努めるとともに、スポーツにより一層まちに魅力や活力が生まれるよう取り組みを進めることが重要となります。



(穂の国・豊橋ハーフマラソン 第1回は2010(平成22)年3月に開催)

(2) 指標推移

スポーツ施設利用者数については、2016（平成28）年度から2017（平成29）年度にかけての陸上競技場改修工事、2019（令和元）年度の新型コロナウイルスに伴うスポーツ活動の自粛により、それぞれ目標値を下回っています。また、研修会・講習会の参加人数についても、年度ごとに実施回数の差があったことから実績に増減がみられます。

指 標	基準値 2014年度	実績値				目標値 [2020年度]
		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	
週1回以上スポーツ をしている市民の割 合を50%にします	34.2%	28.7%	30.9%	32.4%	32.6%	50%
スポーツ施設利用者 数を2,700,000人に します	2,643,362人	2,530,921人	2,543,479人	2,729,097人	2,554,841人	2,700,000人
スポーツ指導者を養 成するための研修会 ・講習会の参加人数 を1,000人にします	918人	944人	836人	867人	940人	1,000人

(3) 取り組みの成果と課題

■目標値の推移

総合型地域スポーツクラブに関しては、設立や運営に対して助言や補助を行うなどの支援を図ったことにより目標値であります6クラブを達成することができる見込みとなっています。また、国際・全国大会出場件数に関しても、各種競技においてジュニア世代の育成が進んでいることから、本市から全国・世界で活躍するアスリートが生まれており目標値を達成できる見通しです。さらに、アスリートファーストの施設を目指して整備・改修を進めた陸上競技場についても、コンディショニングルームやクロスカントリーコースなどの機能を持った次世代の選手育成のためのハイレベルなトレーニング環境を整え供用を始めることができました。なお、ハイレベルな試合の誘致に関しては目標値には達していないものの、Bリーグの三遠ネオフェニックスのホームゲームが大きく増えたことから、一定の成果をあげることができています。

基本方針	取り組み目標	基準値 2014年度	実績値				目標値 2020年度
			2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	
スポーツ活動への参加促進	総合型地域スポーツクラブを6クラブにします。	4クラブ	5クラブ	5クラブ	5クラブ	5クラブ	6クラブ
競技者を支える環境づくり	国際・全国大会出場件数を170件にします。	151件	193件	215件	186件	173件	170件
スポーツ環境の整備充実	陸上競技場スタンドの改修・整備の進捗率を100%にします。	基本設計の実施	本部スタンド改築工事(I期)	本部スタンド改築工事(II期)フィールド改修工事等	供用開始	—	100%
スポーツ大会誘致の推進	ハイレベルな試合の誘致数(開催数)を20回にします。	8回	18回	17回	15回	14回	20回

■主な取り組みの成果と課題

前計画における成果と課題を個別の取り組みごとに整理しました。

○子どもの体力向上

- ・2019（令和元）年度末まで市内小学校 52 校のうち延べ 35 校でスポーツ鬼ごっこの出前講座を行ったほか、「スポーツ鬼ごっこキッズ選手権」や「秋祭りスポーツ鬼ごっこ大会」を開催するなど、遊びから入るスポーツを通して身体を動かす楽しさを感じてもらう機会の創出を図りました。
- ・東三河スポーツ少年団交流大会の開催支援や、スポーツ少年団活動の補助支援をすることで、子どもたちのスポーツをする機会の確保と子どもの健全育成に寄与することができました。

小学校部活動の廃止やスポーツニーズの多様化が進む中、子どもたちがスポーツに触れる新たな機会をさまざまな機関と連携しながらつくる必要があります。

○スポーツを通じた市民の健康づくりの推進

- ・穂の国・豊橋ハーフマラソンや豊橋みなとシティマラソンの開催に加え、家族や仲間などと一緒に走ることを楽しむことを目的とした「FUN NIGHT RUN」を新たに開催するなど、多くの市民が能力や目的にあわせてスポーツ活動に参加できる機会を提供することができました。
- ・健康マイレージアプリの啓発や、豊橋の魅力をたどるウォーキング大会の開催のほか、市民が親しみやすい豊橋弁ラジオ体操を作成し希望する市民や団体に無料配布をするなど、市民や企業の健康づくりの促進に寄与することができました。

引き続き市民の健康づくりのため、スポーツ活動に参加できる機会を提供することが重要です。

○総合型地域スポーツクラブの拡充

- ・市内 5 つ目となる総合型地域スポーツクラブ「KOZOTTE」の設立ならびに自立に向けた支援を行ったほか、「マイタウンスポーツクラブ意見交換会」や「マイタウンスポーツクラブ交流フェスタ」といったクラブ間の交流促進に努めました。（総合型地域スポーツクラブの総会員数は 2020（令和 2）年度現在で約 2,500 人）
- ・市内 6 つ目の総合型地域スポーツクラブ「STORM」の設立支援を行いました。

- ・総合型地域スポーツクラブの持続的な運営には、ノウハウや中心となる人や資金、活動するための場所の確保などが必要となります。
- ・総合型地域スポーツクラブが、子どもから高齢者まで地域住民の生きがいや活躍の場となるよう、行政をはじめ、（公財）豊橋市体育協会、民間事業者などがそれぞれの役割に応じ連携を強化していくことが重要です。

○障害者・高齢者のスポーツ振興

- ・シニア向けのレクリエーションスポーツや各種スポーツ大会を実施し、高齢者の健康増進や生きがいがづくりに努めたほか、豊橋みなとシティマラソンでは車椅子・ハンドサイクル部門を新たに設定するなど、障害者・高齢者スポーツの振興を図りました。
- ・リトアニア共和国パラリンピック委員会と東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた事前合宿に関する協定を結び、リトアニアゴールボール代表の事前合宿を誘致しました。その中で、リトアニアゴールボール代表と日本代表との親善試合、小学生との交流会・体験会を実施し、障害者への理解やホストタウン相手国との交流を深めることができました。

・高齢者については、引き続き健康増進や生きがいがづくりにつながる取り組みを展開することが重要です。
・障害者については、スポーツをはじめのきっかけとなる情報提供などの取り組みが必要になります。また、健常者の障害者スポーツに対する理解を深めることが重要になります。

○ニュースポーツの普及・振興

- ・地区体育館フェスティバルなどで、スポーツ推進委員が中心となって地域においてニュースポーツを実施するとともに、体育の日に豊橋総合スポーツ公園を会場に「ウェルネス」を開催し広く市民へニュースポーツを紹介し体験してもらうなど、ニュースポーツの普及を図ることができました。
- ・学校や地域などで希望する個人・団体にニュースポーツ用具・器具を貸し出し、ニュースポーツをする環境の充実を図りました。

市民への啓発や指導できる人材の育成に引き続き努めることが重要です。

○学校体育施設開放事業の推進

- ・学校体育施設を安心・安全に利用できるよう夜間照明やクラブハウス等の修繕を随時実施してきたことから、年齢、競技レベルにかかわらず、最も身近なスポーツの場のひとつとして、多くの市民に利用されており、市民のスポーツ活動への参加促進につながっています。

・利用者から施設の予約や鍵の授受などにおける利便性向上を求める声が寄せられており、利用しやすい仕組みを検討する必要があります。
・小中学校体育館の市民による利用率は、校区や地区ごとに差があるものの、全体として6割程度となっていますので、今後も施設の有効活用を図ることが重要です。

○競技力向上の推進

- ・オリンピック出場選手やプロスポーツ選手を招いた講座や体験会、さらには指導者育成研修を開催し、次世代の選手にスポーツの奥深さや専門性を伝えるなど、競技者のスキルアップに繋げるための環境づくりを進めました。
- ・「夢応援プロジェクト」として、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を目指す豊橋にゆかりのあるアスリートの応援や広報活動を実施し、次世代のアスリートに新たなモチベーションを与えることができました。（紹介アスリート数：2019（令和元）年度 13 人、2020（令和 2）年度 10 人）

- ・競技力の向上を図っていくため、指導者育成やアスリートのセカンドキャリアの支援を、（公財）豊橋市体育協会や民間事業者などと連携して行う必要があります。
- ・豊橋ゆかりのアスリートの応援や東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の機運といった契機を活かし、市民とアスリートとのスポーツを通じた交流を継続的に行い、次世代の選手の競技力向上につなげることが重要です。

○スポーツ顕彰制度の充実

- ・インターハイ・全中・国体などへ出場する選手に対して激励会を開催し、本市の代表としての誇りと意識の高揚を図るほか、スポーツの振興に貢献した者や団体、全国規模の大会で選手や指導者として優秀な成績を収めた者への表彰を行ってきました。

- ・選手への表彰や顕彰が、全国大会等へ出場する際の一過性のもので終わることなく、選手のその後の活躍を市民に届けることで、市民が選手に親しみを抱き続けてもらえ、選手も本市に愛着を持ってもらえるような交流を図っていく必要があります。

○スポーツ交流の推進

- ・パートナーシティのヴォルフスブルグ市との間で、毎年それぞれの都市で開催するマラソン大会へ相互に選手団を派遣し、マラソンを通じた交流を行ったほか、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として新たにドイツやリトアニアとの事前合宿などを通じた交流を創出しました。
- ・三遠南信地域を対象とした野球や柔道等の大会を実施し、広域的な交流を促しました。

- ・東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした新たな交流が続くよう、相互理解を深めるための取り組みを継続することが重要です。
- ・広域的な交流が持続的に続けられるための支援や、交流人口の拡大のために新たな取り組みを検討する必要があります。

○スポーツ施設の計画的な改修・整備

- ・陸上競技場の本部スタンド改築等の改修、岩田総合球技場の市民庭球場人工芝張替工事、豊橋総合スポーツ公園サッカー場整備など、計画的にスポーツ施設の改修や整備を進めることができました。
- ・市内全域の既存のスポーツ施設の利用実態調査や利用者アンケート調査により、スポーツ施設の今後の方向性についての調査研究を進めるとともに、多目的屋内施設の整備についての基礎調査を行いました。

- ・スポーツ施設を取り巻く環境の変化、市の財政状況等をふまえ、既存のスポーツ施設の計画的な改修を行う必要があります。
- ・多目的屋内施設を含むスポーツ施設の機能や利便性を向上させるなど、スポーツ施設の質の充実を図ることが重要です。

○障害者や高齢者に配慮した施設整備

- ・陸上競技場スタンド改修や豊橋総合スポーツ公園サッカー場などの新たな整備や改修を行うにあたり、多目的トイレや観覧席・トイレまでの経路にスロープを設置するなど、障害者や高齢者に配慮した整備を行うほか、既存施設のトイレの洋式化などについても順次進めました。

- ・老朽化したスポーツ施設を多く抱え、バリアフリー等の対応が進んでいないものも多くみられるので、スポーツ施設を取り巻く環境の変化や市の財政状況等を踏まえながら、計画的に改修・整備を行う必要があります。
- ・障害者スポーツに対応できる環境を整えることが重要です。

○スポーツ情報環境の整備・充実

- ・スポーツ情報が配信されるスマートフォンアプリの開発に加え、スポーツイベントや選手に関する情報を英語と日本語で発信する公式フェイスブックを開設するなど、新たな情報発信媒体を活用した情報環境の充実に努めました。
- ・穂の国・豊橋ハーフマラソンの当日のレースをケーブルネットワークティーズにより生中継でネット配信するなど、民間事業者との連携により大会を広くPRしました。

- ・アスリートの活躍やスポーツに関する情報がいち早く市民に届くよう、多様な情報発信媒体の活用や分かりやすい掲載に努める必要があります。

○地域でスポーツを支える環境づくり

- ・豊橋みなとシティマラソンや穂の国・豊橋ハーフマラソン等のマラソン大会を、企業・団体・高校生・医療・消防関係者など多くのボランティアの支えのもと継続的に開催することができました。
- ・スマートフォンアプリを活用して、三遠ネオフェニックスに関する情報を市民に向けて発信し応援気運の醸成を図るほか、駅前でのバスケットボールのイベントの開催により、まちの賑わい創出に貢献できました。

・持続的にスポーツイベントが開催できるよう、ボランティアとボランティアを必要とする事業をマッチングできる体制を整えることが必要になります。
・三遠ネオフェニックスに関するこれまで取り組んできた情報発信や応援グッズ、イベント開催などの取り組みを継続させることで、市民に三遠ネオフェニックスをより身近な存在に感じてもらうための仕掛けづくりが必要になります。

○ハイレベルな試合の誘致・開催

- ・Bリーグ「三遠ネオフェニックス」のホームタウンとなったことをはじめ、プロ野球、Vリーグ、Wリーグなどの大会や試合を誘致し、市民にハイレベルなスポーツを観戦する機会を提供することができました。
- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のリトアニアゴールボール代表とドイツテコンドー代表の合宿を誘致することができました。

交流人口や競技人口の拡大を図るため、引き続き魅力的な大会や試合を誘致・開催していく必要があります。

○「三遠ネオフェニックス」との連携の推進

- ・小中学校出前講座、530 運動啓発イベント、図書館での読み聞かせ会、東三河食べ支えプロジェクトなどの地域貢献活動を三遠ネオフェニックスと連携して進めることができました。
- ・東三河8市町村と三遠ネオフェニックスによるスポーツを活用したまちづくりを進めるための連携協定を結びました。

プロスポーツチームが持つ価値や情報発信力を活用して、地元に対する市民の愛着心の醸成を図るとともに、本市の魅力を発信するために三遠ネオフェニックスはじめとするプロスポーツとの継続的な連携を行うことが重要です。